深澤 百合子

新書のすすめ　－話題についていける雑学を仕入れる方法－

『女の一生の「性」の教科書』
河野美香著／講談社

長岡技大で長らく図書館員をやっている。なにを隠そう、高専出身である。

高専を出て、なんで図書館員？と言われることがあるが、この仕事をしていて高専卒でよかったと思うことは意外にけっこうある。特に図書担当になったこの数年そう思うことが多い。

図書担当になってから、日々返却される本をながめ、よく利用される本や本の傷み具合をチェックして、図書の購入案を考える。試験時期に「電子物性」やら「半導体工学」といった本がよく借りられているのを見ると、自分の学生時代を思い出し、“みんながんばってるなぁ”とひそかにエールを送る。自分が赤点ばかり取っていた「有限要素法」だの「電磁気学」に関連する本は、新刊が出るとついつい買いたくなってしまう。もちろん（？）詳しい内容は全然覚えていない。でも、工学分野（の一部）の内容が多少でもわかるのは、技大図書館で図書館員をやるのに少しは役に立っているかなと勝手に思っている。

よく言われるように、高専出身者の強みはなんといっても専門知識の豊富さだろう。中学を卒業してからずっと工学系の勉強をしているのはやっぱり大きい。でもその反面、専門知識以外の一般教養的な部分が弱いなぁ、というのも否定できない。

自分自身、高専を出てから、“知らないことが多いなぁ”と痛感することがしばしばある。たとえば、私がいた高専では生物の授業がなかったので、私の生物学の知識レベルは中学生止まり。なので、血液型の遺伝ルールを知らない。何型と何型の両親からは何型の子供が産まれるのか、といったことがわからないので、子供ができたとき、周りがそういう話をしていてもついていけなかった。そして、この話題は世間話の中でもわりとよく出てくるので、内心あせる…。

今は、わからないことがあったらググって適当にネットの情報を読めば、大体のことはわかって事足りてしまう。でも、「よくわからない、でもちょっと興味がある」というテーマについては、ぜひ「新書」を読むことをおすすめしたい。

「新書」というのはいわゆる新書サイズの本で、それほど大きくも、厚くもないので、読みやすくてとっかかりやすい。持ち歩くにも軽くてかさばらないので、就活や帰省の移動時間に読むのにもちょうどいい。新書には『バカの壁』とか『聞

く力』とかベストセラーになったものも多いし、テレビなどでおなじみの池上彰さんや将棋の羽生名人など、著名人が書いたものもたくさんある。旬なトピックやちょっと気になるテーマについてひととおり知りたいときにはなかなか便利である。かたっぱしから読んで、雑学を仕入れておくのも悪くない。いろんな出版社からいろんなレーベル（シリーズみたいなもの）の新書が出版されているが、中でも講談社のブルーバックスシリーズは、科学・工学分野のトピックを中心に扱っているので、本学の学生には手にとりやすそうだ。

せっかくなので、おすすめの新書を１冊あげておこう。ブルーバックスシリーズから『女の一生の「性」の教科書』という新書が出ている。これはぜひとも女子学生に読んでほしい。女性が社会でますます活躍するであろうこれからの時代、妊娠・出産に限らず、一生を通じた「女性」という「性」について、若いうちに正しく理解しておくと、これからのキャリアを考えるのにきっと役に立つはずだ。

ここ数年、図書館には新しい新書が次々と入荷している。ぜひ一度新書コーナーをぶらぶらしてみてほしい。きっと１冊くらいは、ちょっと気になるタイトル、おもしろそうなタイトルの本が見つかると思う。

ちなみに新書コーナーの場所は、図書館２階フロアの真ん中あたり。ご不明な点は、いつでもお気軽に図書館カウンターまで！

執筆者紹介

深澤百合子

本学学術情報課情報サービス係長。担当事務は、利用者サービス全般、図書館資料の受入、管理、分類等。

『書名』　著者名　翻訳者名　出版社または文庫・シリーズ名　出版年　税込価格

『女の一生の「性」の教科書』河野美香著 講談社（ブルーバックス）2012年 1,015円

『バカの壁』養老孟司著 新潮社 新潮新書 2003年 734円

『聞く力－心をひらく35のヒント』阿川佐和子著 文藝春秋（文春新書）2012年 864円

『聞く力２－叱られる力』阿川佐和子著 文藝春秋（文春新書）2014年 864円

ブックガイド目次へ